



ジョフィおおさか

2003年(平成15年)12月20日

発行者 大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部編集委員会
大阪府中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号
TEL06-6245-4800 FAX06-6245-1360

VOL.13

インストラクター研修会



漁業法改正に伴う釣り人の考え方

当日、米田副会長に講師の担当を依頼し改正された都道府県漁業調整規則についてお話しただきました。その中で特に我々釣りに関わりの深い項目について一部を紹介します

改正前では

(非漁民等の漁具漁法の制限)
第五十一条

漁業者が漁業を営むためにする場合若しくは、漁業従事者が漁業者のために従事する場合又は試験研究のために水産動植物を採捕する場合を除き、次に掲げる漁具又は漁法以外の漁具又は漁法により水産動植物を採捕してはならない

一 竿釣及び手釣(まき餌釣を除く)

二 たも網及びびよ手網

三 投網(船を使用しないものに限る)

四 やす、は貝

五 歩行徒手採捕

改正後では、サイドラインの部分で非漁民等→遊漁者等 まき網釣を除く→削除
歩行→削除

以上のように改正又は削除されました。ただし、まき餌釣問題は各都道府県の漁業調整規則で定められており、まき餌使用のできる、できないは、現在遊漁の実態やまき餌の流通量等や環境負荷に対する調査等を実施検討中という自治体もあり、確定していない自治体もあります。まき餌問題や漁具漁法、禁漁期間、漁業権等日頃から勉強しておく必要があると思います。

講習終了後JOFI大阪の今後の運営について懇談会が行なわれ、



海区漁業調整規則改正のうち、まき餌釣りに関する現状

(社)全日本釣り団体協議会で把握している

海区漁業調査規則改正のうち、まき餌釣りに関する現状

..... 15年9月30日現在

..... 15年9月30日現在	
〔回答あり〕	
徳島県	まき餌解除
岩手県	解除
静岡県	解除
青森県	陸からの釣りは問題なし、船からまき餌釣りの対象なし、時期をみて考慮
東京都	時期、方向未定
石川県	一部を除き基本的には解除 8月を目処に意見聴取、10月に結論
福井県	調整していく方向で検討、時期は未定
京都府	まき餌釣りの部分を削除の方向 時期は未定
三重県	解除と委員会指示による地域制限を併用、詳細検討中
和歌山県	検討中、時期は未定、方向も不明
兵庫県	陸からと船からを区別、船からは解除せず
愛媛県	検討中だがかなり困難あり 問題点は船からのアジ等の回遊魚釣りで大分、山口、広島からの遊漁船が操業しており、これに対して強い反発あり、今後の課題 瀬内内地区漁業調整委員会に統括される地域では、船からのまき餌に限定して禁じる兵庫県方式となる公算が大きいと考えられる
福島県	禁止漁法とはしていない
神奈川県	禁止漁法とはしていない
愛知県	禁止漁法とはしていない
大阪府	禁止漁法とはしていない
鳥取県	禁止漁法とはしていない
島根県	禁止漁法とはしていない
山形県	禁止していない
富山県	7月7日海面利用協議会で協議し遊漁の実態や、漁業者団体、遊漁関係団体、からまき餌についての聞き取り調査実施しまき餌の県内流通量や環境負荷に対する調査等を実施中

未回答
A、宮城、高知、山口、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島各県は禁止でない
B、秋田、千葉、茨城、新潟、広島、佐賀、沖縄の各県は禁止だが現状は不明
C、岡山、香川県は、従来、一部魚種を除く船からのまき餌釣り禁止

各氏より色々な意見が出されここ数年來討論されている。全釣協、大釣協との関係、日釣振より貸出しを受けている釣具の使用に関する事、各釣教室での各支部の連携のとりかた等討議すべき課題が数多くあり、より多くのJOFIのメンバーの参加が望まれ広く皆さんの意見を集めより良いJOFI大阪へと改革する事が怠務と考えます。(参加出来ない場合はメール等で発言して下さい)。又、釣教室等でマナーやルールを説くJOFIメンバーとして、自分自身が自分自身を律し研鑽を重ねて行く事が重要だと思えます。

諸問題を乗り越え楽しいJOFI大阪で活動したいものです。

報告者 辻 哲男



JOFI大阪 会員在籍者数	
海水面	180名
内水面	35名
計	215名

(平成15年11月20日現在)



インストラクター研修会

釣り教室の

講師養成研修会

11月22日(土)、大阪心斎橋ヒューマンアカデミー、1204号教室で13:00から15:00まで、釣り教室の指導者、講師の研修会が行われた。JOFI大阪にとって今まで以上に、活躍の場が拡がり、指導者の育成が望まれていた。初めてこの企画を行なうことになった。

釣り教室を立ち上げるに当たり、主催者との種々の協議、釣り教室のカリキュラムの内容、実施での場所の選定等、おたがいが協議を重ねることによって当日の無事故、大成があります。研修会は、初めに今まで釣り教室を運営、担当してきた講師の方々より、釣り教室の内容報告があった。その中で問題提議等が行なわれた。

内容は、釣り教室の予算について、講師の交通費、座学用の消耗品代等を予算化するべきではないか、釣り教室の参加者は、初心者にかぎっては、参加対象の年齢は小学校高学年以上にしてはどうか、それ以外にも様々な意見があった。様々な意見について、一つ一つ解決していきたい。そして、研修会を毎年行ってJOFI大阪の質の向上をはかっていきたい。

報告者 高木 博文



釣り教室の

講師養成研修会に参加して

11月22日 ヒューマンアカデミーにて

釣り指導の講習

当日は、まず、各支部の担当者が、行っている釣り教室の現状報告がありました。各インストラクターの皆さん創意工夫をして、がんばっておられ感心しました。私も、北区の教室、大東市、寝屋川市の教室(実釣のみ)に、参加させていただき大変勉強になりました。各地区の皆さん、教室を開くまでの難しさ、聞いてから予算の確保等、ご苦労され大変だなど思いました。泉州支部としても皆さんを参考に、早期に教室を立ち上げたいと思います。

報告者 房野

インストラクター研修会
平成15年度普通救命講習に参加して

台風10号の影響もたいした事もなく、お盆休みを前にした8月10日の暑い朝、普通救命講習を受講の為、大阪市中央消防署へ8時着。本日は皆様の世話をすの事になっていたので30分程、早く来たつもりであったが早くも熱心な参加者が来ておられる。定刻までに本日の参加者は23名。全員集合し9時より講習が始まりました。ビデオを



見ながら隊員の方のお話の後、(グラママー)な美女(3体が運び込まれた)各人順番に汗をかきながら美女との格闘が始まった。「もう少し強く押せ」「押すスピードが早すぎる」「アバラ骨が折れた」とかヤジが...飛び交い、ワイワイと和やかに進行中。署内に急を告げる警報が鳴り、指導中の隊員方が緊急出動して行かれた。一刻一秒を争う!後、引継隊員の指導で、後日あつてはならない不測事態に備えて各自2度、3度と実技の反復練習をして見聞講習を終えた。



私は今回で3回目の受講であったが、いざやってみるとスムーズに出来ないものだが、これがさつき出勤して行った現場に自分が直面していたら行動できただろうか?今回の講習だけでなく、日頃からの反復練習が重要であると心した。又、年1回の講習だけでなく、何回でも開き、今まで参加できなかった方も多く参加、体験をされながらメンバの親睦も深まりJOFI大阪の活動ももっと活発になるのではと思います。



報告者 近藤 幹雄



当日は、11名の講師のほか「日本赤十字社大阪府支部」にも講師をお願いするとともに、12名のインストラクターも、会場準備・受付等をおこないました。

報告者 東野 英治

平成4年度に日本の釣り史上初めての「公認釣りインストラクター資格制度」を発足させてから、合格者は平成15年3月末、11期公認済インストラクター登録者まで含めると47都道府県にわたり二四〇〇余名のものぼる公認釣りインストラクターが誕生しています。

本年も11月15日(上)16日(日)に大阪会場(ヒューマン・アカデミー心斎橋)で開催致しました。

受講者32名は、「平成15年度公認釣りインストラクター講習会プログラム」の講習科目を全員が終了され、今年12月14日におこなわれる資格試験合格をめざして各自が胸に新たな思いの考えを持つて真剣に取り組んでおられました。



平成15年度
公認釣りインストラクター
養成講習会

今年も大阪湾に
チヌの種魚放流

本年度、22回目となるチヌ放流事業に8月28日参加しました。残暑きびしい日でしたがJOFI大阪としては、12名が元氣一杯、堺新港に集合。9時30分より大阪府釣り団体協議会および(財)日本釣振興会大阪府支部のあいさつ、セレモニー、事業等の説明があり、いよいよ大型トラクックに積まれたイケスから稚魚約3万匹をバケツリレー、ホース等で3隻の船に積み分け、それぞれ新日鉄波止、夢島、岸和田方面へと出発しました。本年の稚魚は7.8cmで、例年に比べると大きな個体でした。トラクックに積まれてい



たイケスと放流地の水温差が大きく(8度ほどあったと思う)心配しましたが、バケツで放流された稚魚は水面近くで一瞬静止、その後一気に海底へと姿を消しました。シーバス等の大型魚に追われる事も無く安心しました。帰港中の船中で無事に大きく育ってくれる事を祈りました。昼前には無事故で活動終了しました。最後に成りましたが、平日の午前中にもかかわらず、事業に参加されたJOFI大阪の皆様には感謝の思い一杯です。本当に御苦労様でした。ありがとうございました。

報告者 中川 英彦

第17回
淀川「わんど」クリーン大作戦
に参加して

7月20日、第17回淀川「わんど」クリーン大作戦が行なわれました。

この日、JOFI大阪のインストラクター13名が参加、市民の皆さん、学生さん、ボーイスカウト、地域の皆様等が千名以上参加し、一緒に川岸、上手、川の中を清掃をしました。

女の子から「このゴミ、燃える燃えない」と聞かれ、又、男の子からは「これゴミですか」と聞かれました。「すぐに燃えるゴミですよ、それはゴミです」と答えると「ハイイ！」と言って、ゴミ袋に入れて喜んで、別の場所へゴミをさがしにいきました。中には、単車、自転車、冷蔵庫、パソコンなどの大物もありましたが、年々、ゴミ袋の数が少なく



なっている事も事実です。これは良い事です。ただJOFI大阪がこのような事業に参加している事が、知られていないような気がします。これからは、どしどしこのような事業に参加していこうと思えました。当日、一時大粒の雨も降りましたが、元氣、マジメに活動しました。お疲れ様でした!

報告者 西谷 文秀

今年も7月20日(海の日)に淀川「わんど」クリーン大作戦が淀川河川敷城北わんど地区で行なわれました。主催はLOVE遊ー淀川実行委員会国土交通省地方整備局淀川工事事務所で、JOFI大阪も協力団体として参加致しました。

例年通りゴミ袋を片手に参加者全員が、斉に清掃開始、途中激しい通り雨がりましたが、熱心な清掃作業により大量のゴミを回収することが出来ました。中にはバイク・自転車・ノートパソコンもあり、いつもながら驚かせられました。また、釣りの人のゴミと思われるテグス・ルアー(ワーム)等も確認されました。改めて釣りの人のマナーについて考えさせられました。

報告者 酒井 将光



フィッシングパーク・サポートによる講習会

「釣りのイロハ教えます」

主催 国土交通省近畿地方整備局港湾空港部
大阪市港湾局 大阪南港魚釣り園

11月9日(日)・16日(日)の両日、海釣りの楽しさを知ってもらおうと施設の利用状況のアンケートを目的に、釣りインストラクター有志により、南港魚釣り園にて1日2回の釣り講習と巡回指導を行った。

9日は、雨模様、16日は風があり絶好の釣り日和とは言えなかったが、休日を釣りで楽しもうと多くのビギナーが来園し、釣りインストラクターも楽しく指導が出来た。
この催しは実施日の1週間前の要請であった為、事業部として理事会に凶る事も出来なかったが、行政主催の行事であり今後の展開等も考え、JOFI大阪の組織を説明させていただき、今後は日程に余裕を持って要請していただく事を申し入れ、今回はJOFI大阪の正規事業とはせず、有志によりサポートした。

何れにしても、これまであまり配慮される事なかった、市民の離れ区域に対して、行政が考えてくれる展開になれば歓迎すべき事である。

- 参加者/11月9日
高木 博文 稲本 英爾 清水 保雄
山崎 勝彦 藤原ケンジ
参加者/11月16日
高木 博文 運天 朝雄 清水 保雄
橋本 等 藤原ケンジ
報告者 高木 博文

大阪南港魚釣り園の
社会実験に参加して

十一月九日及び十六日の二日間、南港魚釣り園において、国土交通省近畿地方整備局港湾空港部主催のフィッシングパーク・サポートによる社会実験が行われました。今回の事業の目的は、釣りインストラクターによる魚釣り公園来訪者への実技の指導、マナーの助言を行い、コンサルタント会社の担当者が釣り人へのインタビュー調査をして、今後の魚釣り公園のあり方を探ろうとするものでした。JOFI大阪釣りインストラクターは、五名参加しました。

当日は、釣り日和とは言えませんでした。釣りが初めてという家族連れも多く、大勢の釣り人で賑わっていました。私達釣りインストラクターは、家族連れ・グループに魚釣りのイロハを説明し、釣りの楽しさを味わってもらおうと精一杯努力しました。子供達の魚が釣れて嬉しそうなお顔をみると、自分の子供の頃が懐かしく思い出されました。釣りにて楽しいものですね。



そして、自然のすばらしさ・怖さを体験することが出来ます。このすばらしさ・怖さを子供達に体験してもらおうにも釣り公園の整備が非常に重要です。釣り公園の整備は、環境改善・保全活動が必要不可欠です。私達釣りインストラクターは、釣りを通して環境保全の大切さを訴えなければなりません。当日の講習会終了後のミーティングは、皆が釣りへの思いを胸に沢山の意見を出し、釣り公園の改善につながるひとつの指針となると確信しました。

最後になりましたが、この社会実験を実施された大阪市港湾局管理課、(財)大阪港開発技術協会の皆様のご努力に感謝します。

報告者 清水 保雄



ワシ、ボラ、ハゲ等が次々と持ち込まれ大いに盛り上がった。なかには恥ずかしそうに小さいアジやイワシを持ち込まれる若いお母さん方もおられ、心むむひと時もあった。

表彰式では大勢の人達が集まり、成績発表を緊張の面持ちで待っておられる参

また、今年にはゴミの回収、子供達への釣り指導のほかに、JOFI大阪会員6名が2名づつに分かれて3つの部の釣魚の検寸の協力も行った。巡回中には竿が曲がるのはほとんど見られなかったように思うが、いざ検寸の時間になると、スズキ、チヌ、アジ、イ



釣り場清掃と釣魚検寸に協力

「ファミリィー」

海釣り大会

JOFI大阪では大阪府釣団体協議会の協力要請を受け、「水辺感謝の日」10月5日に(財)日本釣振興会大阪府支部主催の「ファミリィー海釣り大会」の運営に協力参加した。

開催場所は恒例の泉佐野食品コンビナート埠頭帯で、高木事業部委員長をはじめJOFI大阪の会員13名が参加し、本年新たに設けられた分室にも分かれて、先ずは大会参加の呼びかけやゴミの回収に取り組んだ。

加者の姿が印象的であった。等賞の名前が呼ばれると大歓声があがり、また小さい子供達や若いお母さん方の場合だと尚、層の拍手喝采が起り、照れながらも嬉しそうに賞品をもらってこられる姿もあり、非常に楽しいひと時もあった。

当日は特にトラブルもなかったようので、大会が無事終了できたことは、何よりのことだったと思う。



報告者 松尾 勝士

第8回日本ボーイスカウト

大阪連盟ナニワ地区主催

「釣り章講習审查会」

第8回日本ボーイスカウト大阪連盟ナニワ地区主催の釣り章講習审查会が淡輪漁港において実施され無事終了しました。今回は青少年海洋センターが値上の為、岬町立淡輪公民館を使用させて頂いた頂きました。毎年この講習审查会は10月の第4日曜日に開催しておりますが、中学校の中間試験にぶつかることが多く、今回1ヶ月早く開催しましたが、これが又小学校の運動会に当たり小学生の参加が少なくなり、日程の選択は、学校の行事と他の釣り教室との日程の調整も有り難いです。次回は9月の第3日曜ぐらいはどうかと考えております。

講師の皆さんよろしくお願ひします。

なお、今回は新しく酒井さん・大浦さん・中川さんが参加、本当にありがとうございます。した

報告者 柴崎 隆

釣り章の感想

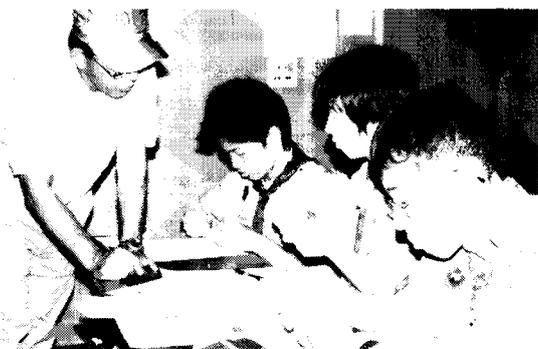
日本ボーイスカウト大阪第8団

松浦 裕樹

9月28日、ボーイスカウトの釣り章に行きました。初め、釣り章はどんな事をするのだろうか、分かりませんでした。隊長にどんなことをするのか聞きました。あまりよく分からないまま釣り章の目がきました。車で釣り章の受けつけの場所に連れて行ってもらいました。

釣り章の講習の時、インストラクターの人が十人程いて、それぞれ海釣りや川釣りの事について教えてくれました。講習では、船で釣る時のマナーや危険な魚なども教えてくれて、自分のためにもなりました。他にも、投げ釣りでの注意や釣りをする時それぞれの釣り方でしないといけない事も分かりました。

それから筆記試験をして、いよいよ、実際に釣りをしました。



近くの防波堤で、サビキ釣りをしました。最初は、ぜんぜん釣れませんでした。残りの時間が残らなくなってから、ぼくは、三匹釣りしました。うれしかったです。今度は、ルアー釣りもしてみたいです。



大東市野崎青少年

教育センター主催

「親子ふれあい釣り教室」

釣り教室・釣り大会に参加して

中野 一生

釣りのことなど何もわからないまま昨年釣りの釣りに家族で参加させてもらい、仕掛けなど先生に全て準備してもらいました。その時はアジを30匹ぐらい釣ることができ、持って帰って早速唐揚げにして食べ、すごくおいしかったのを覚えています。

そこで、今年は自分で準備した仕掛けでおいしいアジをたくさん釣れるようになりたいと思い、釣り教室に参加させて頂きました。毎回違うテーマで講義／実技が有り、テーマ別に各先生が楽しい話を披露してくれました。仕掛けの結び方など子供には多し難しかったようですが、これを覚えたいと釣りに行けないから子供と一緒に必死で覚えたいと。又、釣り教室の中でゴミを持って帰らないと地球が汚染されるといふ話が小学校3年生の息子にすごく印象に残ったみたいで、家でもその話をしていました。

釣り大会まで数日間あったので、釣り教室で学んだことを復習しながら、図書館に行つて初心者向けの釣り入門書などを借りて勉強し、その日を待ち遠しくしていました。釣り大会へは家族4人で参加させて頂きました。当日は少し肌寒い中ではありましたが、先生方に手伝ってもらうことなく、自分達で仕掛けを準備し、ワクワクしながら

仕掛けを投入しました。なかなかすぐには釣れることはなかったのですが、釣りをしている、というだけで何か嬉しさが、こみ上げて来ました。結局、イワシ8匹、アジ8匹を釣ることができ、家に持って帰つて、おいしく頂きました。自分で釣った魚はやはりおいしく、あまり魚が好きでなかった子供達も喜んで食べるようになった。



り、参加させて頂いて良かったと思つています。又、この釣り大会の1週間後に今度は家族だけで、釣りに行くという事で、ちよつと不安ながらも行きました。釣り教室でのテキストを参考に浮きの仕掛けを用意したりして、カワハギやキスが釣れました。そして、子供はサビキ仕掛けの針にシラサエビを付ける工夫を自分で考えて見事に20cmのタカノハダイを釣ることができました。こうして我が家に新しい趣味が増えました。

……大東市野崎青少年教育センター……

樋口 嘉和

10月4日(土) 恒例の釣り大会。今年も泉南郡岬町の淡輪漁港に行きました。今年も定員50名のところに100名以上の参加申し込みがあり、この釣り大会の人気の高さが伺えます。厳選なる抽選の結果、50名(18家族)にしぼらせていただきました。1時半に出発し、現地に3時に到着しました。9名のインストラクターの方の支援をいただき、さつそく釣りが始まりました。はじめのうちは潮の流れが悪く、イワシやふぐが数匹上がっただけでしたが、5時を過ぎてやつとアジが回つてきました。釣つて居る場所によつてよく釣れた所とあまり釣れなかった所があつて、釣果としては、少し残念でしたが、家族でのんびり釣りの楽しさを味わえたのではないのでしょうか。

6時半に終了。後片付けもインストラクターの方に教えていただきながらしました。釣りは自然の恵みを頂くわけですから、同時に自然を守ることも大切な釣りのマナーですね。

泉佐野市

「市民海釣り入門教室」開催

恒例となつております泉佐野市「市民海釣り入門教室」も早や9回目を迎えました。今年も

8月23日(土)に釣りのマナーや竿、リール等の道具と環境問題について、8月30日(土)には、仕掛け作りと魚の釣り方の講習を行ない、9月6日(土)に実釣会を実施いたしました。

今年、親子で参加する人が日立ち、初心者のため釣り道具や釣り方等の説明も若干苦労がありました。アツという間に講習が終わり実釣会の当日がやってきました。

当日は朝から快晴で、気温も上昇し始めた午前7時に集合した総勢25名は泉佐野市生涯学習センターの前からバスに乗り込み和歌山県マリーナシティ海釣り公園に出発。途中で仕掛け餌を購入し、8時過ぎに到着。

藤堂館長の挨拶の後、高木事業部委員長から注意事項の説明があり実釣開始です。

最初はマキ餌の詰め方、底の取り方、リールの取扱い方等を受講者へ指導を行いました。早速仕掛け投入、竿先を2、3度上下させると小さな魚信がありリールを巻き上げるとイサギの新子がダブルで上がってきました。マキ餌が効き始め魚が次々と釣り掛りしダブル、トリプルで釣れ出すと、大人も子供も大はしゃぎで、仕掛けのお祭りやリールのトラブルが続出し、3名の指導者も右往左往の忙しさになりました。魚種も小型ながらイサギ、鰯、グレ、フグ、小鯛にサンパウ等、多種に亘り、参加者も大喜びで釣果に満足。11時30分に釣場の清掃とゴミの片付けをし、成績優秀者の表彰を行ない納竿としました。

賞をもらった子供達は父親に又、釣りに連れて行って欲しいとお願いしている姿が見られ、将来のJOFI候補が育つ可能性を感じました。



報告者 山崎 勝彦

八幡市教育委員会主催

八幡フイッシング教室

9月20日(土)、八幡市教育委員会主催の「八幡フイッシング教室」が30名の参加者のもと、開催されました。第3小学校の体育館での教育委員長の開演挨拶の後、釣りの楽しさ、仕掛け、守るべきルール等について講議を行いました。



その後、インストラクターの指導で参加者が鯉釣りの仕掛け作りを行ないました。参加者の中には釣りが初めての人もおり、苦労しながら仕掛け作りに取り組んでいました。昼食後、志水池での釣り実技を行う頃よりあいにくの雨模様となりましたが、参加者は雨にも負けず鯉釣りに夢中で、40〜50cmの鯉を釣り上げては歓声をあげていました。鯉を釣りあげた時の嬉しそうな顔を見てインストラクター、同釣り教室を実施して良かったと思える一日になりました。

特に、今回は6才から76才と幅広い方々の参加があり、孫の保護者としてのお爺さん、お婆さんも多数参加されてほほえましい一面が見られ、これからも釣り教室を継続して行きたいという思いを強く感じました。

尚、当日はインストラクター8名(吉川・中出・続木・太良木・中田・柴田・甲斐・山田)が出席しました。

当日の様子は9月23日、京阪ケーブルテレビで枚方、八幡地区に放映されました。

報告者 山田 護

京都府和束町の教育委員会が主催する「自然との触れ合い海釣り体験教室」が昨年と同じ「神戸市・平磯海釣り公園」にて、九月二十七日(土曜日)に開かれました。

参加者は、和束町に在住の児童とその保護者・親族の方々と、今回は二十五名の方が参加し、定刻の午後一時、主催側のスタッフの方々・支援のインストラクター等全員が大型バスに乗り込んで同町を出発。途中、釣り場到着までの車中ではインストラクターからマナーや海と釣り場の状況・釣り方など、釣りについての基本・注意事項などが易しく解説され、「走る海釣り教室」となりました。

ほぼ予定の時刻には釣り場へ到着し、早々に仕掛けの準備をして、午後三時三十分頃からの、釣り開始となり、半数ほどの方々は昨年参加されていて、自ら仕掛けの準備をして釣り始める方もありましたが、殆どの方は説明を聞き、手助けを受けながらの竿出しとなりました。

今回の釣りは、サビキ釣り仕掛けを使ってあじやいわし等を「たくさん」釣る予定だったのですが、子供の嬉しそうな歓声が上がったりして、賑やかだった割には、釣果の方は「たくさん」とはいかず、少々不満の残る結果となりました。

そんな中でも、サビキ釣りの細仕掛けで、四十センチを越す様なボラを、二名の方が釣り上げており、納竿後に大物賞のトロフィーを受けて大感激の面持ちが印象的でした。

納竿後、釣り場と道具の片付けを終えて午後七時三十分、帰途につき同十時には全員が無事帰着しました。「釣り」では、誰もが釣果を期待し、殊に初心者では、その期待も大きいものですが、午後から薄暮に掛けての、淡路島が霞む明石海峡と、ライトアップされた明石海峡大橋を目の前にしながらの釣りは、釣果の多・少には変えられない、素晴らしい「海釣り」の体験となり、釣りに対する興味・関心を更に深める一日となりました。尚、当日は5名(続木・山田・中田・甲斐・柴田)のインストラクターが同行しました。

報告者 柴田 彰夫

寝屋川市スポーツ少年団主催

「親子ふれあい大会」

JOFI大阪
インストラクターご協力者の皆様へ

寝屋川市スポーツ少年団
谷川 義文

寝屋川市スポーツ少年団主催の「親子ふれあい釣り大会」に、多大なご協力をいただき有難うございました。

今大会は、晴天にも恵まれるとともに多くの魚を全員が釣ることができ、参加した家族全員の笑顔が絶えない釣り大会でした。

この大会の目的であります「父親との会話」「母親との会話」「御祖母さんとの会話」「兄弟との会話」それぞれの会話が多く見られました。本年も、昨年と同様に子供達のすばらしい笑顔を多く見ることが出来ました。子供達の笑顔に勝るものはありません。その笑顔があったのは、早朝から場所・仕掛け・えさ等の準備、それぞれの子供達への親切な指導があったからだと思っております。

また、皆様に実施していただいた釣具の清掃と釣り場の清掃の意義を子供達に教えることも必要と考え、来年から参加する家族の人達にも釣具の片付け及び釣り場の清掃まで、インストラクターの皆様と協同して行わせたいと考えています。来年も継続して実施したいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

最後になりましたが、皆様が行なっておられる水資源への各種のボランティア活動が、より大きな成果を得られるようにと祈っております。





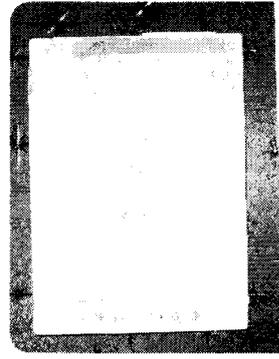
私の自慢 森田 邦征 (毎日新聞木曜夕刊釣り欄担当)

30歳代前半から10年ほど、とりつかれたように本や雑誌など、釣りと魚について書かれたものなら何でも集めまくった。重点を置いたのは戦前の刊行物。各地の古本屋はもちろん、百貨店などの古書即売会、さらに目録による通信販売も利用して、なけなしの小遣いをつぎ込んだ。集めた文献をもとに「週刊釣りサンデー」に「釣りの本棚」「釣り百態」を各1年間掲載したこともある。

集めたものの中には明治期に出版された本が2点ある。満尾藤次郎著「漁魚術」と久徳外雄著「日本釣漁法全書」がそれ。発行はともに明治33年。西暦では1900年だから、1世紀以上も昔の本ということになる。私も親交のある日本の釣りの文

献取集・研究者、名古屋の金森直治さんによると、雑誌の文章などを除いて、明治の釣りの本は10点あるなしだという。その中の2点だから、ちよつと自慢できるのではないだろうか。

詳しく紹介する余裕はないが、漁魚術は内外遊戯全書というシリーズの1冊で、文庫判112ページの小さな本。フナ、アユ、タイ、スズキなど身近な16魚種の漁法を取り上げている。日本釣漁法全書は四六判216ページで、水産教科書といった趣が強い。釣り具、餌料といった後編に続き、約60魚種について仕掛け、餌、釣り方などを解説している。淡水では「伊豆国狩野川にて足法を成す」としてアユの友釣り、また塩水ではイワシのカラバリ釣りなどにも触れていて、なか



なか興味深い。最後に余談を一つ。私の所蔵する日本釣漁法全書は、大阪の某百貨店の古書即売会で850円で購入したもののだが、東京の古書店の目録では4万5000円の値がついたこともある。数少ない私の掘り出し物である。

コイヘルペス ウイルス病
KHV

- ◎コイヘルペスウイルス病は人に感染することはありませんので、病気に感染したコイを人が触ったり、食べたりしても問題ははありません。
- ◎水道水の安全性についても全く問題ありません。

テレビ等で報道されています「コイヘルペスウイルス病」に感染したコイが、大阪府下の淀川等で確認されました。「捕まえた魚を他の河川や池に移動させないでください。」

河川等で大量に感染した鯉を見かけられたら下記までご一報願います。

最新情報は水産課ホームページに掲載しております。
ホームページアドレス <http://www.pref.osaka.jp/suisan/index.html>
問い合わせ/大阪府環境農林水産部水産課・漁業振興グループ電話 06-6941-0351 (代表)

編集後記

暖かな12月でしたが、やつとコートが必要な冬らしい寒となりました。又、日の岬にもメジロの便りが届くようになってきました。さて、12月14日には「釣りインストラクターの資格試験」がおこなわれました。新しい仲間が増え、より活発な活動がなされることに大きな期待を持っています。広報誌もその一環としてご利用ご活用ください。お互い頑張っていきましょう。物部 胤三

全釣協のホームページ皆さん見て下さい

<http://www.zenturi-jofi.or.jp>

おわびと訂正のお願い
前回発行広報誌（VOL 12）4ページの支部地域図の中にあやまりがありましたので、訂正致します。
京都南支部
支部長/山田光高 ↓
山田 護
大阪港支部 ↓ 大正港支部
編集後記最終行の「同封の寄稿依頼原稿」とありましたが今回同封させていただいております。
以上、訂正よろしくお願致します。
広報部委員長
物部 胤三